

# 平成 21 年度 事業報告

社団法人日本スカッシュ協会

## (1) スカッシュ競技の普及に関する事業

### ① スカッシュデー・スカッシュウィークの実施

主催：(社) 日本スカッシュ協会

主管：全国のスポーツクラブ及び地区支部等

日程：<スカッシュデー>平成 22 年 2 月 11 日

<スカッシュウィーク>平成 22 年 2 月 6 日～14 日

会場：全国のスポーツクラブのスカッシュコート等

目的：スカッシュの楽しさをより多くの方に体験して頂きスカッシュの一層の普及を目的とする

対象：一般の方、どなたでも。

参加予定人数：2,025 名 (56 施設)

内容：スカッシュ体験会、試打会、ヒッティングパートナー、コーチング、レンタル無料デー、スカッシュ大会、3/4 ゲーム大会等

### ② 広報活動

イ) 広報誌<SQUASH>の発行

Vol. 65 7 月 20 日発行

Vol. 66 平成 22 年 2 月 20 日発行

ロ) 協会ホームページの運営

全日本アンダー23、ジャパングジュニアオープン、マスターズカーニバル、全日本選手権、全日本ジュニア選手権等の大会においてトップページで速報と写真掲載を行った。

企業主催大会の広告を掲載して継続的に利用されている。

ハ) 携帯メールによる情報の発信の実施

ニ) 体育協会記者クラブ等マスコミへのプレスリリース等情報発信

トップ選手の海外大会での活躍等をプレスリリースにして情報発信した。

ホ) JOCの環境活動の一環として、JSAエコキャンペーンをジャパングジュニアオープン、全日本選手権、全日本ジュニア選手権で展開した。

### ③ 大会等のスポンサー対策及び増進

全日本選手権等の大会やスカッシュウィーク等の普及に関する事業で企業協賛を募集し、協力を得ることができた。

## (2) スカッシュ競技の競技力の向上に関する事業

### ① アクションプラン活動とアクションプラン募金活動

目的：世界に通じる選手の育成と指導者の養成を目的とします。

対象：選手強化活動とコーチ養成の活動が対象となります。

内容：ナショナル強化プロジェクトチームによるスカッシュエリートプログラムの実施とその運用研究。また、全国の地区支部や協会の大会において募金活動を行い、主に海外遠征やコーチ講習会の充実の為に活用された。

### ② 第9回世界コーチング会議への派遣

<JOC平成 21 年度選手強化委託事業>

主催：世界スカッシュ連盟

日程： 5月22日～24日

開催地： 香港

参加： コーチ2名（土田博史、足立美由紀）

成果： スカッシュ最新コーチング情報の収集と世界各地のコーチとの交流を行った。

③ J S A公認レベルT（普及トレーナー）認定講習会と認定試験の開催・公認

主管：（社）日本スカッシュ協会

（社）日本スカッシュ協会関西支部

日程： 6月14日（協会主催）、6月21日、（関西支部主催）12月12日（協会主催）  
3月21日（関西支部主催）

会場： コナミ都賀（6月14日）、ルネサンス尼崎（6月21日）、コナミ恵比寿（12月12日）  
ルネサンス尼崎（3月21日）

目的： スカッシュの正しい知識と指導法を体得し、スカッシュの一層の技術向上を目的に行った。

対象： スカッシュの初心者レベルでのグループ作り等のサポートが出来る方。

参加人数/合格者数：（6/14）7/7名、（6/21）8/8名、（12/12）5/5名（3/21）5/5名

成果： 基本知識と基本ショットの正しいストローク方法、レフリー・マーカの基本知識等を習得してスカッシュの技術向上を図れた。

④ ルールブックの発行事業

2009年4月1日付で改訂されたスカッシュ・シングルスルールを日本語に翻訳する時点で全面改訂し、冊子にして発行した。用語の見直しを行ったり、より容易な表現を用いたりするように内容を変更した。

⑤ J S A公認審判講習会と認定試験の開催支援と公認<2級・3級・4級>

主催： 全国の地区都道府県支部

目的： レフリー・マーカの正しい知識を習得し、スカッシュ審判の一層の技術向上を目的とする

日程	会場	主催・主管支部	受講者数	受験者数	受験結果				備考
					2級合格	3級合格	4級合格	追試	
4月19日	セントラル札幌	北海道	17	21		7		7	
4月25日	ルネサンス福岡大橋	九州	13	4		2		1	
6月28日	仙台市民会館	東北	23	12		2	1	7	
7月25日	ルネサンス福岡大橋	九州		1					追試のみ
10月12日	SQ-CUBE	神奈川県	22	21		6		9	
10月31日	仙台市民会館	東北	31	7		2	1		
2月13日	西宮大学交流センター	関西	33	29		5		15	
2月14日	セントラル住ノ江	関西	22	7		3		4	
2月20日	SQ-CUBE	神奈川県	23	21		7			
2月21日	マスカットスタジアム	中国四国	13	13		2	1	5	
2月27日	京都テルサ	関西	35	18		5		7	
3月20日	西宮大学交流センター	関西		13		5			追試のみ
		計	232	167		46	3	55	

対象：4級—一般、ジュニア等のスカッシュ経験が浅い者等。  
3級—スカッシュの競技歴が1年以上と認められる者等。  
2級—スカッシュの競技歴が3年以上と認められる者等。

参加人数：表を参照

内容：講習会にて、正しいルールやレフリー・マーカのあり方、正しいジャッジ（判断）の進め方、トラブルの対処方法、観客や試合のコントロールについて学び、筆記試験と実技（DVD）試験の点数により認定の可否を決定。

成果：今年度より審判講習会開催に関わるSSFスポーツエイド事業の補助が昨年度で終了したが、引き続き全国各地で審判講習会を開催することができ、協会の自立した事業として行えるようになったと認識できる。

#### ⑥ 第10回世界スカッシュレフリー会議への派遣

主催：世界スカッシュ連盟

日程：9月25日・26日

開催地：デンマーク、オーデンセ

参加：大森紀人

成果：日本のレフリングを世界との一貫性を持たせ、発展させる為の知識を得る事が出来た。

#### ⑦ レフリーフォローアップ講習会の開催

主催：(社)日本スカッシュ協会

日程：11月21日・22日、12月20日、平成22年2月21日

会場：(11/21-22) 鋸南中央公民館、(12/20)西宮市男女共同参画センター、  
(2/21) マスカットスタジアム

参加人数：(11/21・22) 25名、(12/20)38名、(2/21) 10名

目的：世界と一貫性を持ったレフリーの正しい知識を習得し、スカッシュ審判の一層の技術向上を目的とした。

成果：2009年の改訂シングルス・ルールの紹介と、世界レフリー会議での講義内容を踏まえて、スカッシュ競技のレフリングをする中で重要な判定である「ルール12：妨害」について解説した。

#### ⑧ ナショナルスカッシュ強化合宿の開催

主催：(社)日本スカッシュ協会

<JOC平成21年度選手強化委託事業>

日程：シニア部門<東アジア競技大会強化合宿>

10月21日～23日

ジュニア部門<夏期>8月27日～29日、<冬期>12月25日～27日

会場：サンセットブリーズ保田、品川健康センター（東アジア強化合宿のみ）

対象：ナショナルチームの選手、ジュニア選手に一般の選手もプラスした幅広いプレイヤーを対象とした中から卓越した才能を発掘し育成強化を目指す。

参加人数：東アジア代表選手強化合宿=男子4名、女子3名

夏期ジュニア合宿=男子4名、女子5名、役員2名

冬期ジュニア合宿=男子6名、女子3名、役員2名

内容：東アジア強化合宿/東アジア代表選手のダブルス練習、シングルス練習

ジュニア合宿/フィジカルチェック、コンディショニングゲーム、フィジカルトレーニング、基本ショット及び戦術練習、ゲーム練習、等。

成果：東アジア競技大会にて銀メダル2個（男女団体戦）銅メダル5個（女子個

人戦 2 個、男子個人戦 1 個、男子ダブルス 1 個、混合ダブルス 1 個) を獲得するまでの選手強化を図る事が出来た。メジャーな総合競技大会でのメダル獲得は (社) 日本スカッシュ史上初となる快挙である。

ジュニア合宿においては、スキル及びフィジカルのチェックを行いレベルアップを図る事が出来た。今後は、全国レベルでの練習環境整備にも力を注ぎたい。

⑧ 第 9 回日韓合同スカッシュ交流事業<ジュニア強化合宿>

主催：(社) 日本スカッシュ協会 & 韓国スカッシュ協会共催

日程：8 月 18 日～20 日

会場：ヨコハマスカッシュスタジアム SQ-CUBE

成果：日韓両国の交流及びスカッシュの技術向上を図る事を目的に、毎年日本と韓国を交互に開催地として実施している。今回はジャパングジュニアオープンと同時期に行うことにより、後半は韓国トップジュニアにジャパングジュニアオープンへ参加してもらって一層の選手強化を図る事が出来た。

対象：<ジュニア>日韓両国のジュニアトップ選手

<シニア>日韓両国のナショナルトップ選手

参加人数：日本=男子 5 名、女子 3 名、役員 2 名

韓国=男子 6 名、女子 2 名、役員 1 名

内容：日韓合同練習・トレーニング、テストマッチ、インターポートマッチ、親善交換会

⑨ 西日本地区ジュニア強化合宿

主催：(社) 日本スカッシュ協会 選手強化委員会

主管：(社) 日本スカッシュ協会関西支部

協力：(社) 日本スカッシュ協会中国四国支部

(社) 日本スカッシュ協会兵庫県支部

日程：7 月 25 日・26 日

会場：倉敷スポーツ公園マスカットスタジアム内スカッシュコート

成果：関東を中心とした現在の流れの中では地方のジュニア選手の把握は困難であったが、地方でジュニア合宿を開催することの大きな目的であった「新しい発見」があった。

対象：西日本地区のジュニア強化指定選手および参加希望ジュニア選手

参加人数：男子 7 名、女子 8 名、役員 3 名

内容：コートトレーニング、フィジカルトレーニング、実践トレーニング

**(3) スカッシュ競技の競技大会に関する事業**

① 公認大会運営ルールの作成、実施・大会記録、データ整備・公認大会の管理・ランキング制度の実施・全国支部大会への指導、補助を行った。

また、下記の件を実行した。

- 平成 21 年 4 月 1 日よりのラリーポイントルールへの移行
- スコアシートを国際標準である縦型に変更
- ランキングを 2010 年 2 月より日本人ランキングを廃止しジャパングランキングに一本化した。

② 協会主催の競技大会

イ) 第 20 回全日本アンダー23 スカッシュ選手権大会

日程：6 月 6 日・7 日

会場：セントラルフィットネスクラブ錦糸町  
目的：日本のトッププレイヤーを目指す若いプレイヤーの育成強化を図る事が出来た。

対象：23歳未満の男女

参加人数：97名

内容：トーナメント制

ロ) 第23回ジャパンジュニアオープンスカッシュ選手権大会

日程：8月21日～23日

会場：ヨコハマスカッシュスタジアム SQ-CUBE

成果：海外のジュニア選手の参加により、日本の選手との交流と技術向上を図る事が出来た。日韓合同合宿と同時期に開催することにより韓国トップジュニアに参加してもらう事が出来た。

対象：男女アンダー19、17、15、13、11、9の選手

参加人数：182名

内容：トーナメント制及びリーグ制

ハ) 第15回マスターズカーニバル

日程：10月10日・11日

会場：ヨコハマスカッシュスタジアム SQ-CUBE

成果：マスターズの年代のスカッシュ愛好家による親睦を図り、新企画の「トリオマッチ」や「全日本歴代チャンピオンに挑戦」を通じてスカッシュの試合を通じた楽しい仲間作りが出来た。

対象：男女オーバー30、40、50、60（初心者～ベテラン）

参加人数：158名+32組

内容：トーナメント及びリーグ制

ニ) 2009 きょなん町・サンセットブリーズCUP第38回全日本スカッシュ選手権大会

日程：11月20日～23日

会場：サンセットブリーズ保田

成果：全国で開催された公認大会において上位の成績を収めた選手達により、日本チャンピオンの座を競う国内最高峰の大会として開催され、日本全国のトップ選手の交流と一層の技術向上を図る事ができた。

対象：全国の公認大会における上位入賞者で、日本国籍を有する者、及び男女マスターズ

参加人数：188名

内容：トーナメント制

優勝：男子=福井裕太（セントラルー社）2連覇（21歳）

女子=小林海咲（SQ-CUBE PRO）史上最年少初優勝（19歳）

ホ) 第3回全日本選抜ジュニアスカッシュ選手権大会

日程：平成22年1月30日～31日

会場：フィットネスハウスパレット中川

成果：今回は19歳未満と15歳未満のクラスに分けた。参加人数は少なかったが、年代の壁を超えてチャレンジ出来る機会を育んでいきたい。

対象：19歳未満の女、15歳未満の男女

参加人数：14名

内容：トーナメント及びリーグ制

ヘ) JOC ジュニアオリンピックカップ第14回全日本ジュニアスカッシュ選手権大

会

日程：平成 22 年 3 月 26 日～28 日

会場：ヨコハマスカッシュスタジアム SQ-CUBE

成果：日本のジュニア選手で年代別ジュニアチャンピオンを競う大会として、交流と技術向上を図る事が出来た。今年度は「JOCジュニアオリンピックカップ」として（財）日本オリンピック委員会の後援を得て、一層盛大に開催する事が出来た。

対象：男女アンダー19、17、15、13、11、9の選手で、日本国籍を有する者。

参加人数：124名

受賞：■男子 Under 19 優勝者：小林僚生 (SQ-CUBE Academy)

■女子 Under 19 優勝者：山崎真結 (SQ-CUBE Academy)

上記 2 名の JOCジュニアオリンピックカップ受賞者は、共に国内ジュニア最高レベルで優勝した選手であり今後の活躍を期待し、さらなるモチベーションアップをはかるため授与した。

内容：トーナメント制

### ③ 海外大会日本代表派遣

#### イ) ミロ・オールスタージュニア大会

< JOC平成 21 年度選手強化委託事業 >

日程：5 月 28 日～6 月 2 日

開催地：マレーシア、プキットジャリル

種目：男女アンダー19,17,15,13,11

参加：14 カ国・540 名

日本チーム：選手 10 名、役員 2 名、計 12 名

主な戦績：山崎真結U17 女子 準優勝

#### ロ) 第 4 回東アジアスカッシュ選手権大会

< JOC平成 21 年度選手強化委託事業 >

日程：6 月 22 日～27 日

開催地：香港

種目：男 3 女 2 の混合団体戦

男女ダブルス、混合ダブルス

参加：6 カ国・41 名、

団体戦 6 チーム

ダブルス各部門 12 チーム参加

日本チーム：選手 6 名、役員 2 名、計 8 名

主な戦績：団体戦 2 位 (銀メダル)

男子ダブルス 5 位、6 位

女子ダブルス 3 位 (銅メダル)

混合ダブルス 4 位、7 位タイ

#### ハ) 香港ジュニアオープン

< JOC平成 21 年度選手強化委託事業 >

日程：8 月 11 日～17 日

開催地：香港

種目：男女アンダー19,17,15,13,11,9

日本チーム：選手男子 9 名、女子 8 名、役員 2 名、計 19 名

成果：最終的な成績は昨年より上がったが、他国と基礎技術や戦術的な差がみられた。合宿や合同練習の機会を増やしていきたい。

ニ) 第8回ワールドゲームズ2009 高雄大会

<SSFスポーツエイド事業>

主催：国際ワールドゲームズ連盟（IWGA）

後援：国際オリンピック委員会（IOC）

日程：7月16日～26日（スカッシュ：7月21日～25日）

開催地：チャイニーズタイペイ・高雄市

種目：男女個人戦

日本代表：選手男女各1名、役員1位

成果：世界のトップ選手と対戦する機会を得た事は大変良い経験となった。

今後の試合にどう生かしていくかが課題である。

ホ) 第22回世界男子スカッシュ団体選手権大会

<JOC平成21年度選手強化委託事業>

日程：9月27日～10月3日

開催地：デンマーク、オーデンセ

種目：男子団体戦

日本チーム：選手男子4名、役員2名

結果：日本チーム/25位、参加28ヶ国中

1位エジプト、2位フランス、3位オーストラリア、4位イギリス

成果：ヨーロッパ国の参加が増えた事により大会のレベルが上がり前回より順位は下がったが、日本チームの若手は世界のトップ選手からゲームを奪う活躍をした。今後プロトーナメント参加等による高いレベルでの試合経験を積む事が必要と考える。

へ) 第5回東アジア競技大会

<JOC派遣事業>

主催：東アジア競技大会連合

日程：12月4日～12日

開催地：香港

種目：男女シングルス、男女ダブルス、男女団体戦、混合ダブルス

参加：スカッシュ5ヶ国（香港、マカオ、韓国、中国、日本）40名

日本チーム：選手男子4名、女子4名、役員3名

成果：銀メダル 男子団体戦（福井裕太、机伸之介、清水孝典、松本淳）

銀メダル 女子団体戦（小林海咲、松井千夏、前川美和、大宮有貴）

銅メダル 女子個人戦（小林海咲、松井千夏）

銅メダル 男子個人戦（机伸之介）

男子ダブルス（福井裕太、机伸之介）

混合ダブルス（福井裕太、松井千夏）

（団体戦優勝：男女共香港）

スカッシュが正式競技入りした初めての東アジア競技大会において男女団体戦の銀メダルをはじめ合計7個のメダルを獲得して目標を達成出来たことは評価に値する。特にダブルスコートが日本に殆どなく練習の機会が少なかった中でのダブルスふたつの銅メダルは今後の可能性に期待が寄せられる。更に国際大会の試合経験をより多く積む事が今後のアジア競技大会等での活躍に繋がると考える。

④ 海外派遣承認大会

イ) ペナンインターナショナルジュニア大会

日程：6月4日～8日

開催地：マレーシア、ペナン

種目：男女アンダー19,17,15,13,11

参加：9ヶ国、約370名

日本選手参加：選手男子2名、女子4名

成果：小林僚生U15男子優勝、山崎真結U17女子優勝

ロ) スコティッシュジュニアオープン

日程：12月28日～31日

開催地：スコットランド

種目：男女アンダー19,17,15,13,11,9

日本選手参加：男子6名、女子1名

ハ) ブリティッシュジュニアオープン

日程：平成22年1月2日～1月6日

開催地：シェフィールド

種目：男女アンダー19,17,15,13,11,9

日本選手参加：男子6名、女子1名

#### (4) その他本会の目的を達成する為に必要な共通事業

① アジア競技大会に向けてのロビー活動及び選手強化活動

成果：2010年11月のアジア競技大会ではスカッシュの種目が増える為（これまでの個人戦に団体戦が追加）より多くの日本人選手が出場できるように努力し、メダル獲得に向けて選手強化を一層充実させた。

対象：男女ナショナルチーム。

種目：男女シングル戦、団体戦

成果：集中的な強化合宿を経て、東アジア競技大会にて銀メダル2個（男女団体戦）銅メダル5個（女子個人戦2、男子個人戦1、男子ダブルス1、混合ダブルス1）を獲得する成果を上げられた。

② オリンピック競技大会での正式競技入り実現の為に推進活動

成果：スカッシュの普及発展の為に、WSF（世界スカッシュ連盟）との連携により、IOC（国際オリンピック委員会）並びに開催国スカッシュ協会への2016年オリンピック競技入り要請運動を展開したが、今回は残念ながら実現しなかった。引き続き2020年のオリンピック競技入りに向けて努力する。日本国内でも記者体験会及び世界一斉のワールドスカッシュデーイベント等を実施してスカッシュをアピールした。

③ 日本体育協会への加盟準備

成果：スカッシュの普及定着を目的に、日本体育協会とタイアップしてカリキュラム調整を検討してきたが、時期尚早との結論に基づき中止とする。

④ ドーピング検査及びドーピング防止啓蒙活動

成果：(財)日本ドーピング機構に加盟して、全日本スカッシュ選手権大会にてドーピング検査を実施した。又、機関誌等でドーピング防止の為に啓蒙活動を行ったり、ドーピング防止研修会への参加を行ったりした。

⑤ 「(社)日本スカッシュ協会ナショナルトレーニングセンター(仮称)」建設に向けた情報収集

成果：継続的なスカッシュ人口増大の為に、協会保有のスカッシュコートを建設しての普及活動が不可欠。国や自治体の協力を得て「(社)日本スカッシュ協会ナショナルトレーニングセンター(仮称)」の建設を目指す為の資金と情報の収集に努力した。



⑥ 会員募集事業と公認事業制度の運用

成果：別紙参照

⑦ 世界スカッシュ連盟、アジアスカッシュ連盟、各国協会、男女国際プレーヤーズ協会等海外との連絡調整

成果：10月に発足した東アジアスカッシュ連盟の創設時メンバーとして加入した。

⑧ 全日本学生連盟との連携、強化

成果：平成 22 年度より、全日本学生連盟会員も協会で一括して個人選手登録を扱う方針を決めた。

⑨ 公益法人制度改革における公益社団法人への移行準備

成果：平成 22 年 6 月の総会にて「公益社団法人日本スカッシュ協会定款案」及び「役員案」等を図り承認後秋頃の申請予定に備えた。  
全国の支部と協議の結果、公益社団法人への移行認可後は「支部」を名乗らない事に決定した。また移行後の地区支部及び県支部の名前は「(地区または都府県名)+協会」とする方針を決定した。